

# あやま図書室だより



## <今月の特設コーナー>



**児童 ★ 古き良き時代「むかし」**  
昔の日本にタイムスリップしませんか。  
時を超え 出会える楽しさがいっぱい!



**一般 ★ 俳句・川柳・短歌・詩歌**  
鑑賞、入門、そして詠む…  
経験者の方も初めての方も新しい分野の一步へ



## 年末年始 休室のお知らせ

**12月28日(木)~1月4日(木)**

※28日は図書整理日

休室中の本の返却は、ブックポストをご利用ください。  
但し、DVD・大型絵本・紙芝居につきましては、  
開室後、窓口で返却をお願いいたします。

## <12・1・2月 阿山図書室カレンダー>

### 12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

### 1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

### 2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

■ 休室日    ♥ 読み聞かせの会

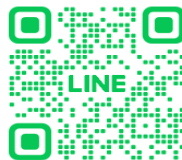
## 雑誌リサイクルコーナー開設中

除籍した雑誌をお譲りします。  
ご自由にお持ち帰りご活用ください。  
おひとり様 各種2冊まで (PIは5冊まで)  
※なくなり次第終了します。



## —LINEはじめました—

「伊賀市上野図書館  
LINE 公式アカウント」は右のQRコード  
から「友だち追加」できます。  
図書館利用にご活用ください。



【開室日】 火曜日～日曜日 10時～12時、13時～17時  
(12時～13時は休室)

【休室日】 月曜日、祝日、図書整理日、年末年始  
読み聞かせの会(ボランティアグループ はあと&はあと):  
第3土曜日 10:30～11:00

伊賀市図書館 ホームページ (<http://www.iga-library.jp/>)  
阿山図書室(あやま文化センター内) 伊賀市川合 3370-29  
TEL:43-0154 (受付時間 10時～12時、13時～17時)

# 新着図書の紹介



## <一般>

書名	著者名等	内容等
おあとがよろしいようで	喜多川 泰	金も夢も友もない上京したての大学生・暖平は、ひよんなことから落語研究会に入ることに。落語が繋ぐ仲間との出会いが、彼の人生を大きく変えていき…。書き下ろし人生応援小説。
江戸 POP 道中文字栗毛	児玉 雨子	平賀源内が書いた異種ヤンデレ純愛幼馴染ハーレムBL?! 俳諧はJ-POPに似ている? 児玉雨子が、破天荒な江戸文芸の世界を読み解く。近世文芸作品のリメイク短編小説も収録。
サヨナラどーだ!の 雑魚釣り隊	椎名 誠	「あやしい探検隊」結成から60年、正統後継団体として日本全国を飛び回ってきた雑魚釣り隊にも、遂に終宴の 때가 やってきて…。房総、宮古島、伊豆大島、八丈島などの釣り紀行。
<悪の凡庸さ>を問い直す	田野 大輔 他	職務に忠実なだけの“凡庸な役人”、上からの命令を伝達する“歯車”というイメージで広く受容されている、アーレントの<悪の凡庸さ>概念。その妥当性や意義をめぐり、アーレント研究者とドイツ史研究者が真摯に語り合う。

## <児童>

書名	著者名等	内容等
さびれた村とかいぞくだんと	岩野 聖一郎 文 永井 郁子 絵	枯れ木ばかりで、魚もとれず、田畑も干上がった村に大きな海賊船がやってきた。船から降りてきたのは、恐竜の海賊団。村に食べ物がないことに怒った海賊たちは大暴れして帰っていったが、村は少しずつ豊かになって…。
まよなかのふとんおうこく	ランディス・ブレア	暗闇がこわくて眠れないワトソン。その時、ふとんから漏れる不思議な光を見つけ…。夜更けに広がる想像力の世界。恐怖心と探究心の綱引きの世界を、美しく、静かに、ちょっぴりユーモラスに描いた絵本。
こちら、ヒミツのムー調査団! 1 その少年は UFO から来た!?	大久保 開 作 ゆえ 絵 ムー編集部 監修	菜の花畑に出現した、奇妙な模様。それは宇宙人からのメッセージ!? 小学生3人組が、この世のなぞと不思議に立ち向かう! 伝説の雑誌『ムー』とのタッグで贈るスーパーミステリー・シリーズ、スタート。
アマゾンの ふしぎな森へようこそ!	南 研子	アマゾンのインディオ保護区にある先住民たちの村に30年以上通り、多くの時間を先住民とともに過ごしてきた著者が、彼らのくらしぶりと、開発によって熱帯林が消えつつある現状を伝える。

[本紹介文 TRC より抜粋]

